



# その立場にならないと わからないこと

大阪教育大学附属平野中学校 1年生

ふじ わら こう すけ  
藤原 洸輔

調査地：J R 東部市場前駅、J R 天王寺駅、  
大阪シティバス

「えっ？そんな事あるの？本当に？」

ある日、新聞を読んでいると

「点字ブロックに盲点」(写真 1)

という記事を見つけました。その記事の内容を要約すると、

＜視覚障がい者の9割に影響があるのにも関わらず、見落とされがちな問題がある。それは、点字ブロックが景観意識の高まりもあり、デザインを優先した道と同系色のものも増えており、当事者にとって大変な問題となっている。＞

という内容です。僕の点字ブロックの色のイメージは黄色でした。しかし、そうではない所もあり、それが景観意識によるものだとは！と驚きました。

そこで、その実態を調べてみることにしました。まず、家の周りや人がたくさん集まる大きな駅へ出向きました。そこでは、記事にあった通り色々な型がありました。以下特徴的なものを記載しました。(写真 2・3)

さらに、もう一步踏み込み、僕も視覚障がい者の方と同じ状態になればどうなるだろうかと思い、ある実験をしました。

それは、自宅から最寄り駅まで普段通り歩いて行った時(以下 A)と目隠しした状態の時(以下 B)での所要時間の違いなどの相違を調べてみました。時間では、A 3分 15 秒、B 4分 20 秒と1分以上の差があることがわかりました。

実際目隠しをして気づいた点はいくつかあります。点字ブロックには、警告ブロックと

呼ばれる点の形をしたブロックと、誘導ブロックと呼ばれる棒型のブロックがあります。が何も見えない状態でもきちんと足の裏でブロックを感じられました。目が不自由でも点字ブロックがあることで安全に外出できるのだと思いました。また、(写真 4)を見ると点字ブロックがカーブに沿って並んでいます。これはとても安全性が高まると思います。

続いて、身近な乗り物について J R の駅構内と大阪シティバスについても調査しました。(写真 5～7)は駅構内の写真です。トイレの場所が図と点字両方で示されていたり、電車へ安全に誘導する点字ブロックがあります。また券売機では高さが低めなので使いやすく大事な所が光りわかりやすいです。(写真 8・9)は大阪シティバスです。この会社のバスはほとんどノンステップバスで乗降しやすく、段差は注意喚起のため黄色になっています。また、手すりの場所や色も高齢者や視覚障がい者の方がすぐつかまれるようになっています。

このように、大阪市では行きたい時に行きたい場所へ安全に行けるようなやさしさがたくさんあることがわかりました。同時に、今回目隠しをして実験をしてみて、やはりその立場にならないとわからないこともあると実感しました。今の僕に出来るやさしさは何だろうか？レポートを終えて出た答えは、まず相手の立場に立ち、何か一言声をかけたり手伝いをするという事です。がんばるぞ！



写真1

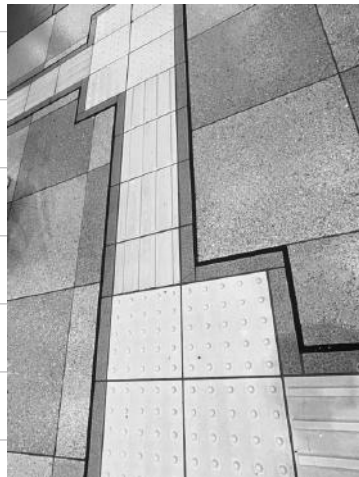


写真2



写真3



写真4



写真5

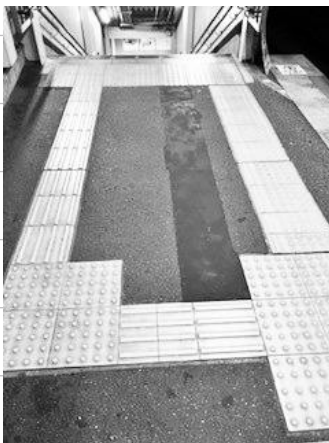


写真6



写真7



写真8



写真9



# 交通機関で見つけた 様々な工夫

大阪教育大学附属平野中学校 3年生

とり やま しん いち ろう  
鳥山 慎一郎

調査地：Osaka Metro 谷町線

大阪メトロを中心に僕が毎日、通学で使う経路をできるだけ高齢者や障がいのある人の目線で調査してみました。

地下鉄のホームに降りるには、地下に降りることが必要ですが、道路からはエレベーターが設置されています。僕の利用している駅は、国道の下を地下鉄が走っているため、道路から直接ホームに降りることはできませんが、エレベーターを三回乗れば降りることができるようになっていました。また、改札からホームに降りる階段には二段式の手すりが設置されています。普段は気づきませんでしたが、これは高齢の人など誰でもが使いやすくするための工夫のようです。

改札の手前の券売機は、今まであまり考えたことがありませんでしたが、台数が少なくなっているように思います。駅の人に聞いてみると、ICカードの普及により台数は減っているようです。しかしその券売機は誰もが使い易いように、低く作られていて、券売機の横には点字表が設置されていました。

ホームに降りると、僕の最寄り駅にはホームドアは設置されていませんが、途中の東梅

田駅には、誤って転落することがないようにホームドアが設置されています。調べてみると、谷町線には1駅だけですが、御堂筋線などは多くの駅で可動式ホーム柵が設置されていて、堺筋線では2022年度に全駅で設置予定となっていました。

また、大阪メトロのホームページによるとこれだけでなく、車いすなどでも利用しやすいよう車両とホームのすき間や段差を小さくしたり、赤ちゃんを連れた人も利用できるよう授乳室の設置も進められています。

このように通学で使う駅や鉄道をいつもとは違った目線で調査してみて、高齢や障がいのある人だけでなくみんなが気持ちよく利用できるような取り組みが進められていることがわかりました。

僕は今回の調査で、いつも使っている交通機関には様々な方への配慮がされていることがよくわかりました。それでも、まだ配慮ができていない場所もありますし、人によっては十分でないこともあります。そういう意味ではやはり、人と人との助け合う精神が最も大切であることを学びました。